

ボゴール農業大学における 学生農村実習 (KKP-IPB)

報告者: Prastowo

ボゴール農業大学社会連携研究所 (LPPM-IPB)

報告内容

1. はじめに
2. 重要なポイント
3. ラーニングアウトカム
4. 効果
5. 主体者の役割
6. 実施体制
7. 単位認定
8. 資金源
9. 実施主体

1. はじめに

1. ボゴール農業大学(以下、ボゴール農大)における地域コミュニティ貢献活動は、社会連携部の管轄のもと1965年に開始された。
2. 学生による地域貢献活動の1つとして、KKN(Kuliah Kerja Nyata;学生農村実習)が挙げられる。
3. 2003年にKKNの名称は KKP(Kuliah Kerja Profesi;学生職業実習)に改められた。
4. ボゴール農大のKKPは、学生のチームワーク、学問分野を超えた協力といったソフトスキルと、フィールドにおいてプログラムを運営するリーダーシップ能力を養うことを主眼とする。

2. 重要なポイント

ボゴール農大のKKPは、多様化しつつある農村社会のニーズに対して、理系分野の学際的知識を効果的に適用するとともに、学生の自主自立、相互協力、リーダーシップ(等のソフトスキル)能力を高めることを目的としている。

2. 重要なポイント

地域活性化を担う学士に求められる能力

コミュニケーション能力

論理思考力

チームワーク能力

需要と潜在力を感知する能力

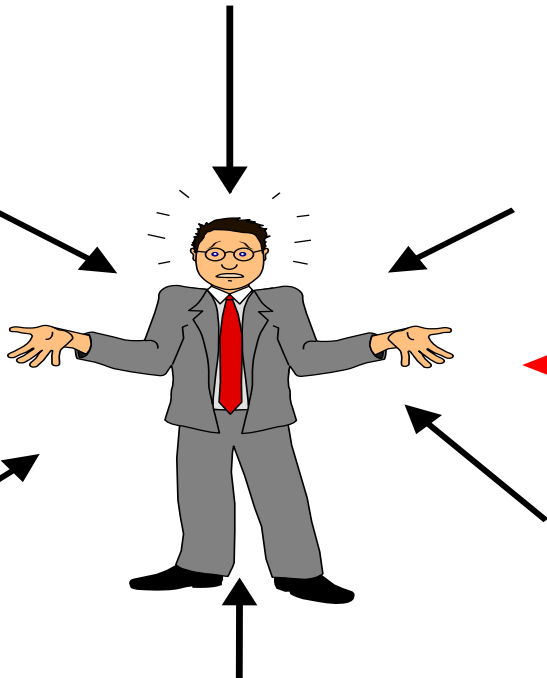
イノベーションにアクセスし習得する能力

物事を俯瞰する能力とネットワーキング力

批判的分析能力

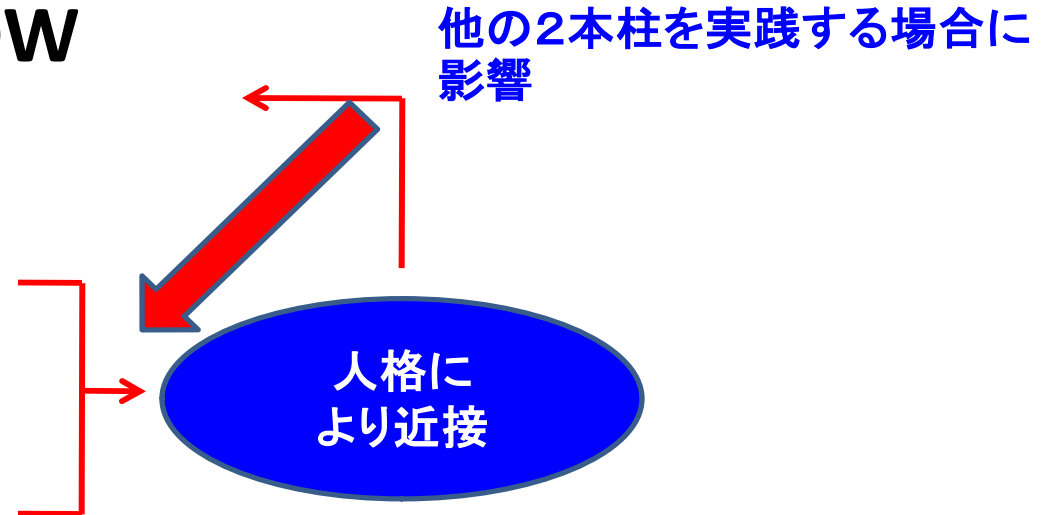
イノベーション能力/情報技術駆使・デザイン能力

■ ハードスキル
■ ソフトスキル



ユネスコ定義による人格形成の4本柱

- LEARNING TO KNOW
- LEARNING TO DO
- LEARNING TO BE
- LEARNING TO LIVE TOGETHER



2. 重要なポイント

ボゴール農大の理事は以下の点について、真剣な努力が必要と訓示：

1. 大学人の村落民に対する共感意識を高めること。関係者は教育分野において学生と教職員の農民、漁民、村人に対する共感を高めていくよう意識づける。
2. 学生が村落を訪れ、そこでの生業に参画するなど、農民・漁民・村人と積極的に関わりをもとめようとすることを義務とすることで、KKPの質的向上を図り、上記の点を実現する。

3. ラーニングアウトカム

KKPに参加後の学生は以下の能力を身につけることが期待される：

1. 地域活性化プログラムの立案と実施（問題の発見、プロポーザル作成等のプログラムの提案、成果報告作成と事後評価）といったハードスキルの能力
2. 自立、相互協力、リーダーシップ、ネットワーキング、関係間調整といったソフトスキルの能力

3. ラーニングアウトカム

第一のラーニングアウトカムをふまえたうえで、KKP参加
学生が身につけると期待される能力：

1. 農学分野と環境に関連する分野の視座から、村落の問題を発見し、分析する能力。
2. 農学分野と環境に関連する分野の視座から、問題を解決し、代替案を提示する能力。
3. 村落における複雑な社会生活において、倫理的に正しく専門分野の知識を適用する能力。

3. ラーニングアウトカム

第二のラーニングアウトカムをふまえたうえで、KKP参加学生が身につけると期待される能力：

1. 地域の最適潜在資源を発見し、開発する能力。
2. 地域の問題解決のためのプログラムを分野横断的かつ統合的に計画し、評価する能力。
3. 産・官・学間の協力とコミュニケーションを活性化させ、地域の問題解決に役立てる能力。
4. 社会生活の現実にあるニーズを満たすため、問題解決に努力し、関係者間の協力体制を構築する能力。

4. 効果

KKPの活動は、活動に関わるあらゆる主体にとって、有益となることが期待される。

- 学生
- 大学
- 地域社会
- 地方政府
- 地域産業界

5. 主体者の役割

1. 学生：
 - 地域活性化のファシリテーター
 - 多様な創意の橋渡し
2. IPB：
 - 創意の共有 *Sharing inovasi*
3. 地域社会：
 - 潜在力と問題群についての情報共有
 - KKPプログラムへの参画
4. 地方政府：
 - KKP実施のファシリテーション
 - KKP実施の認可と警護
 - KKPプログラムの資金助成
5. 産業界：
 - 事業・プログラム開発のうえでの協力
 - CSR(企業の社会的責任)遂行としての学生の教育

6. 実施体制

テーマ:

- ボゴール農大のKKPでは、毎年異なるテーマを設定。KKP実施地となる各県・市毎でもテーマを定め、さらに各プログラムでもテーマを決める。
- 各県・市におけるKKPプログラムは、その地方政府の開発計画と相乗効果が出るよう、それぞれの地域の潜在力、問題群、ニーズに合わせて編成される。
- 上記県・市レベルのプログラムの内容は、学生たちの専攻分野に合わせてながら、KKP実施単位となる行政郡・行政村レベルで具体的に決められる。
- KKPプログラムのテーマ設定においては、各村落が持続的発展を図れる点に主眼が当てられる。
- テーマ選定はボゴール農大や各地方政府によっておこなわれる。

6. 実施体制

参加者資格:

- 授業科目を最低105単位以上を修得し、かつ平均成績値 (IPK;最高は5.0)が2.0以上の学部学生で、実習履修登録済であること。

指導体制:

- 各学科内での推薦に基づき、学部長がフィールド指導教員 (DPL)を認定。フィールド指導教員がKKPの実施学生を指導する。

6. 実施体制

KKPの一連の範囲：

1. 事前準備
2. 事前講義
3. 参加学生の選定
4. セミナーⅠ
5. プログラム実施
6. 現地指導、監督、フィードバック
7. フィールド活動の評価
8. セミナーⅡ

6. 実施体制

実施パターン:

KKPは複数の学部や学科で実施したり、一学部や一学科のみで実施することもある。各学部／学科が分野に合わせて地域を選定。

6. 実施体制

場所:

□KKP実施場所は、以下の点を考慮して決定される:

- 専門分野との関連性
- 行政村のカテゴリー
- 後発途上の行政村を優先(へき地、未発展など)
- 乗用車やバイクでアクセスできること
- 各行政郡内で互いに近接している行政村
- 1つの郡内の4-6の行政村で実施
- 地方政府により認可を受けたところ

□KKP実施場所は各学部／学科の意向に合わせて選定され、1郡内で5-7の行政村となる。

7. 単位認定

2013年度までの認定単位は3単位。現在、以下の点を考慮し、4単位認定となるよう提案・議論されている。

- a) 事前授業に20－24時間かかるため、1.5単位分に相当する。
- b) 村落フィールドでのKKPの実施期間は8週間(7－8時間／日)となり、2.5単位分に相当する。

8. 資金源

ボゴール農大のKKPの予算:

- 学生からの授業料
- 社会連携研究所のプロジェクト予算
- 寄附金

9. 実施主体

KKPの実施は、社会連携研究所によるコーディネーションのもと、KPP主催体によって行われる。アドホック(特定の目的をもつ)の主催体は、

- 1) 各学部のKKP主催体
- 2) 社会連携研究所内のコーディネーション主催体から成る。

Terimakasih
ありがとうございました。